連載

千葉一族盛衰記

千百年の都の始まりと蝦夷の話

第二話　千葉一族繁栄の基礎となった桓武天皇の二つの事業

歴史噺家　けやき家こもん

千葉一族を考えるうえで、桓武天皇を知ることは重要です。なにしろ、千葉一族は歴史上「桓武平氏(かんむへいし)」として語られることが多いので、「桓武?」というところでつまずいてしまうと、この先つまらなくなってしまいます。この桓武天皇、血縁という意味において千葉一族の基礎であるのは言うまでもないのですが、彼がなした事績についても、千葉一族繁栄の礎といえるものがあります。

本稿では、桓武天皇にしろ、千葉一族にしろ、この人物についてみていきましょう。

一つ目は平安京を都(みやこ)としたことです。桓武天皇が平安京、つまりざっくり言えば京都を都と定めたのが794年。その年から、平清盛が福原に遷都した1180年の1年間を除き、なんと明治2年(1869年)までの約1100年の長きにわたり、かの地は「都」でありつづけました。

桓武天皇が平安京を都としたいきさつは、当時強大な政治勢力を誇った奈良仏教団の影響力を削ぐ目的や、皇位継承をめぐる抗争の果てに憤死させた早良(さわら)親王の怨霊に対する畏れが背景としてあると言われており、調べてみるとなかなかに血なまぐさい権力闘争が浮かびあがります。しかし、とにかく「日本の中心地」を定めた役割は非常に大きいといえるでしょう。

また、千葉一族の繁栄という文脈で考えると、この「都の確定」が非常に大きな意味をもちます。国の成り立ちという観点で、東西問わず基礎がしっかり定まってから地方の平定、という段階を踏みます。平安京の人たちからみれば、後に千葉一族が繁栄することになる当時の千葉県一帯は、蛮族が暮らす未開の地でした。その意味で、平安時代の幕開けは、「未開の地の平定」を任された千葉一族のはならないエポックだったわけです。

桓武天皇の事績として次にあげられるのが、蝦夷(えみし)の討伐です。蝦夷というのは、現在の関東地方から北海道、樺太にかけて住んでいた民族を指します。日本書紀には、蝦夷は入れ墨をした荒々しい民族として描かれており、「都の側」の人たちからすればいわゆる「蛮族」と呼ばれた人たちです。この蝦夷は、もちろん朝廷の権威などとは無縁の「独自の生活文化」を作り上げて関東から東側の地で暮らしていました。

桓武天皇は征討軍を3回送っています。民族自決の精神にあふれた(笑)第二次世界大戦以降の世界に生きる私たちからすれば、朝廷は朝廷、その他民族の皆さんは、それぞれで仲良く暮らしていけばいいじゃないですか、と思いますが、当時は力がすべての時代です。桓武天皇や都の人たちからすれば「朝廷の権威に従わない物騒な奴らだ! 成敗せねば」と「恐怖からくる怒りがあったことでしょう。

桓武天皇から、3回目の征討軍のトップに任命されたのが、坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)です。このとき、田村麻呂につけられた称号が「征夷大将軍(せいいたいしょうぐん)」でした。後に「武人の最高栄誉職」という意味をもつことになり、源頼朝にも徳川家康にも与えられたこの称号は、次回登場する平高望(たいらのたかもち)にも浅からぬ因縁があるのですが、そのあたりのお話しは次回にいたしましょう。

【著者プロフィール】
昭和46年佐倉市生まれ。郷土史や伝説をわかりやすく、楽しく伝える目的で、落語調で歴史を語る「歴史噺家」として活動。著書に「佐倉市域の歴史と伝説」がある。

第14回 KEIYO CHARITY GOLF開催

プレー代の一部を更生保護施設や福祉施設へ寄付

6月5日(月)に京葉カントリー倶楽部にて「第14回KEIYO CHARITY GOLF」が開催され、今年は156名が参加した。毎年、参加希望者が多く、参加枠は申込開始後にすぐに埋まり、キャンセル待ちも多いという人気ぶりだ。

毎年恒例のこのイベントは京葉カントリー倶楽部の休場日に施設を開放し、参加費の一部をチャリティに回す目的で続けられ、今年もプレー代から必要経費を除いた84万円が、市内の更生保護施設や福祉施設に寄付された。

同イベントを共催するのは京葉カントリー倶楽部フェローシップ・エチケット委員会とNPO法人にこにこ稲毛。各協賛企業の協力と京葉カントリー倶楽部の従業員やNPOスタッフが運営に参加し実施されている。

当日、会場には寄付先である「社会福祉法人つどい」や「社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会・らいおん工房」のブースが設置されハンドメイド小物を販売。制作した施設の利用者たちも販売スタッフとして参加した。一般的なチャリティイベントは、寄付金が何に使われているかわかりにくいことが多い。しかし、こうした施設のプレーを設ける取り組みによって自分たちのプレー代が、どの施設に寄付され、どのような活動に役立っているのかを参加者が知る機会になっている。

これまでの寄付金は通算で1千2000万円以上。活動がスタートしたた2009年以来、コロナ禍ではやむを得ず自粛した年もあったが、法務大臣から10年以上連続で感謝状を贈られるなど社会貢献度が高い活動だ。

同イベントのプロジェクトマネージャー、NPO法人にこにこ稲毛の守屋瑤氏は「チャリティ趣旨にご賛同くださる皆様のおかげで今年もお陰で無事に開催できました。これからも私たちができることで地元の更生保護施設や福祉施設を応援していきたい」と語った。

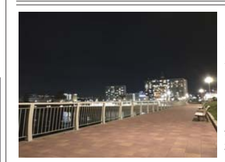
さんばしまつり今年も開催決定

JR京葉線・千葉都市モノレールの千葉みなと駅至近にある港の公園「さんばしひろば」にて千葉市みなと活性化協議会主催「さんばしまつり2023」が8月20日(日)に開催さら上げる。また、会場からボートパークへ寒川神社の神輿が巡行するなど多彩なラインナップがイベントを盛り上げる。

キッチンカーや屋台が登場。ステージでのライブパフォーマンス、港と夜空を照らす「光と音楽の水上ナイトショー」など多彩なラインナップがイベントを盛り上げる。また、会場から寒川神社の神輿が巡行するなど多彩なラインナップがイベントを盛り上げる。

編集部のつぶやき

6月中旬、日が落ちてから「さんばしひろば」へ出かけ、夜の散歩を楽しみました。ライトアップされたスペースは昼間とはまた違った雰囲気で、心地よい風に吹かれながら、美しい港の夜景を眺めることができます。横浜に負けず劣らず、とてもステキなスポットです。(真)



「りょうえん葬儀」
稲毛陵苑でご利用いただけます。
一日葬　311,300円(税込)より
二日葬　426,800円(税込)より
新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて
当市では新型コロナウイルスのさらなる感染拡大を防ぐため、その予防に努めております。地域の感染症対策としてマスク着用をお願いしております。また、ご参列、ご焼香の皆さまにおかれましても、着席でのアルコール消毒やマスク着用をお願いしております。ご見学いただく際には、一組ずつの制別対応をさせていただいております。式場はコントランス・霊柩とも広く開放空間となっておりますので、他の方々様との区画間距離を大きく取ることが可能です。また必要に応じて換気もいたしておりますのでご安心して来場ください。
稲毛駅からすぐ、お気軽に手ぶらで室内参拝
利便性
●駅近で専用駐車場も完備
●手ぶらで参拝（線香・お花不要）
●室内のため天候を気にせず参拝
趣き
●緑・水・光を感じられる参拝環境
●和型・洋型の選べるお墓スタイル
●くつろぎの屋上庭園・ラウンジ
安心
●プライベート空間を保つ参拝環境
●オリジナル納骨堂方式（トコタL&F製）
●最新耐震構造でご遺骨を収蔵
【注意事項】葬儀の運営については、各提携先（葬儀社）に委託します。
稲毛陵苑は檀信徒施設となりますので、当山僧侶がお勤めいたします。
※別途冥加金をお納めください。詳細は職員にお問合せください。
ＪＲ稲毛駅徒歩３分
京成稲毛駅徒歩５分
無料駐車場30台完備
これからの供養のかたち
葬儀・納骨・法事すべて執り行えます
開苑時間／8:00～18:00 年中無休（365日開苑）〒263-0031 千葉市稲毛区稲毛東3-7-5
稲　毛　陵　苑　☎043-388-0559
宗教法人毘沙門堂／稲毛陵苑概要　●一階／管理事務所　二階／本堂・副本堂・法事室　三階／納骨堂（稲信徒向け施設）●許可番号：千葉市保健所第29-1号

新連載　ローカル小説

「同窓会へ行かなかった人」　前編　草野くれよん

佐古田はもう1時間以上も稲毛の街をさまよっていた。

集合時間はとっくに過ぎている。どうせ同窓会だ、少し遅れたくらいで消えてしまうものではない。けれど、「呼ばれたから来たさ。でも本当は気乗りしないんです」という前ポーズを取ってみせたいがために遅れてくる屈折した人間には、どちらかというと共感を持てない佐古田だったから、遅刻は本意ではなかった。

しかし会場の『潮銘館』という店はいっこうに見つからない。高齢期に突っ込んだ足には、いささか歩きがきつくなってきた。

くそ。どうして案内状を忘れたりなんかしたんだろう――

佐古田はもう不機嫌につぶやいた。ただ、それは自分の迂闊さより、自分をこんなに疲れさせている稲毛という街に対する腹立ちが大きかった。高齢者はまず「何か問題があったさ。でも自分以外の人のせい」という前提で物事を捉えるのである。

40年ぶりとはいえ、稲毛は生まれた街で、大学を卒業するまで暮らした場所だ。なにより、『潮銘館』という名称には、なんとなく覚えがあった。

案内状を忘れたことは家を出てすぐ気がついたのだが、戻るのが面倒だったし、行けばわかるだろうと考えた。

何事も「自分ならうまくやれる」前提で行動を組み立てるのも高齢者の特徴である。

神奈川県の西部から、私鉄と地下鉄とJRを乗り継ぎ乗り継ぎ、3時間近い小旅行の末に到着した稲毛は、年末特有の浮き足だった賑やかさにあふれていた。そして、記憶になにひとつ当てはまる風景がないほど、すっかり様変わりしていた。

……駅が高架式のホームになっているのには驚いたな。

佐古田の知っている稲毛駅は地上式でホームから東口に出るには跨線橋を渡る必要があった。

東口を出てすぐの風景も、まるで初めて来た土地を眺めているようだった。右側にあったはずの銀行や文房具店、喫茶店などがいっさいなくなっていて、ファミリーレストランの『ココス』、パン屋の『サンジュルマン』、パチンコ屋に替わっている。

左側にあったタクシー会社のモータープールも、大きな餃子が名物だった中華料理屋もない。コンビニと居酒屋、『ミスタードーナツ』になっていた。『西友』もない。

そうだ、と佐古田は思いつく。ネットで調べればいいのではないか? こんな時のためにあるのがスマホだろう。

背広の内ポケットからスマートホンを取り出す。つい最近、ガラケーから替えたばかりだ。おぼつかない手つきで画面ロックを解除し、液晶画面を睨みつける。

……ネットか。さて、ネットは。

いくら探しても、ネットというアプリはなかった。これだからスマホは使いにくいのだ。腹を立てかけた時、次のアイデアが脳裏に浮かんできた。

……幹事に電話すれば万事解決ではないか。

素晴らしい手を考えついたことに悦に入りながら電話帳アプリを開いた直後、佐古田の喉から「ぐぅ」というような音が漏れた。

住所録データが入っているのは前のガラケーだったのだ。移行する方法がわからず、スマートホンには手入力で入れたかかりつけの病院や地域包括支援センター、宅配弁当会社など数件の番号が登録されているだけに過ぎなかった。

……役に立たない道具だ。

参加者が高齢のため、集合時間は早めに設定されていたが、その時刻はとうに過ぎ、日は落ちた。にも関わらず、見知らぬ夜の住宅街を闇雲に歩き回り続けた。

自分ほどの優秀な人間ならば、必ず目的地に辿り着けるはずという自信が揺らぐことはなかった。自信というより執念と呼ぶ方が正しい心情だったが、それが何かを引き寄せたのか、偶然、見覚えのある場所に出た。さっき通ったばかりの、駅へ至る道だった。

次号へ続く

著者　草野くれよん
千葉市の稲毛生まれ稲毛育ち。稲毛在住。筋金入りの稲毛者。好きなパンはマロンド。好きな芸能人はマツコ・デラックス。好きなお菓子は万沢饼（まいわいもち）。愛読書は稲毛新聞。

千葉ジュニアペンギンズがクリーン活動実施

「アクアリンクちば」にて実施されているこの活動は、歩道上や植え込みなどに捨てられたごみや空き缶などを収集し、街を美しくすると同時に、ごみ問題について考える機会を持ってもらおうと千葉市が推進している。市内の各団体がそれぞれ清掃活動を行っている。

「アクアリンクちば」はクリーンセンターがごみを焼却する際に生まれたエネルギーを使って水を作っていることから、「千葉ジュニアペンギンズ」の選手たちは利用しているホームリンクや地域への日頃の感謝の気持ちを込めて、6月17日(土)に地元の稲毛海岸駅からリンクまでごみ拾いを行った。各自でごみ袋を持ち、沿道に捨てられた様々なごみを見つけては一つ一つ拾って行くと、1時間後には集めたごみが結果として見えたことで充実感を得ていた。

チーム関係者によると、クリーン活動を通して地域への感謝の思いを育むこと以外にも、約1時間の歩行は体力づくりにもなるという。また、通行人や自身の安全に配慮しながらごみ拾いをするので、広い視野を持ち、状況把握や判断の訓練にも役立ったのだとか。今回の清掃活動はチームとして初の試みだったが、今後も続けていきたいと話した。

「千葉ジュニアペンギンズ」は、昭和50年代の元国体選手がコーチを務めており、アイスホッケーのコーチングだけでなく、挨拶や礼儀作法の基本的マナーや親への感謝、スポーツマンシップも体得できるよう指導を行っている。

に発足した千葉でも歴史のあるジュニアアイスホッケーチームだ。OBやも千葉代表として次に活躍した千葉一族の一人、蝦夷(えみし)の時代において「征夷=蝦夷を征服する」大将軍という本来の意味で使われていたわけです。

さて、田村麻呂によって事実上ほぼ平定された蝦夷は、次回登場する平高望(たいらのたかもち)にも浅からぬ因縁があるのです。

毎週火曜日の夕方と土日を中心にアクアリンクちばにて練習中の同チームでは現在メンバーを募集している。アイスホッケーの楽しさを気軽に体験してもらおうと、通常練習時も無料体験を実施している。ホッケーの道具は無料で貸出しているので、初心者も安心して体験できる。未就学児から高学年までアイスホッケーを始めるに年齢は人それぞれだとか。興味を持った方は、ぜひHPからお問合せを。

随筆

ドライブの思い出

古城希子

窓を開け放ったら夏の香りをたっぷり含んだ風が吹き込んできた。

今日は祝日でお休み。先に起きていた「何時まで寝てるんだ。目が腐っちゃうぞ!」と怒鳴る声が廊下の方から聞こえてきた。

時計を見るとまだ八時半。休みの日くらいもう少し寝ていたいのになあと思ったが、急いでパジャマを着替え、歯を磨き顔を洗った。

台所へ行くと儀ちゃんはもうキッチンテーブルに着いて朝食ができるのを待っている姿勢。

我が家の朝食は簡単だ。あんパン一個とレモンティーとバナナだけだもの。

儀ちゃんはその朝食を食べ終わると、今度は朝刊紙に手を伸ばす。三紙取っているのだが、彼はゆっくりと時間をかけて新聞を隅から隅まで読む。

これは出勤日であろうと休日であろうと変わりのない毎日の作業の一つだ。

その日は新聞を読み終わった儀ちゃんが「お母さん、俺の運転で銚子へ行かない? おいしい魚をご馳走してやるぞ」と言った。

「お父さんの運転で行くの? 大丈夫かなあ」と私は不安なのでそう言った。

「何言ってるんだ。俺は飛行機の操縦だってできるんだぞ。自動車の運転なんて鮮なお魚をゆっくり食べるものいいな」

私はそう決めて「行こう、行こう」と儀ちゃんに答えてすぐ着替えにかかった。

我が家に私名義の車は一台あるが、私は運転できない。四街道へ住むようになってすぐ教習所へ通ったのだが、練習場の事務室の壁にぶつけてしまい、練習車を大破させてしまった。私はその日で潔く教習所をやめた。

儀ちゃんはその話を聞いて「お前は運転免許証は取るな」と言った。でもその時の私は自覚がなかった。真っ赤な三菱の軽自動車だ。儀ちゃんが乗るには極めて似合わない車なのだが…。でもその日は二人仲良く車に乗り込み、銚子に向かって出発した。

しかし儀ちゃんの運転は荒っぽい。その上、始終、ブレーキをかけるので、私の身体はその度にガクンガクンと前のめりする。

荒っぽい運転に私はハラハラして「前の車に接近しすぎてるわ。スピードを落として」とか注意する。

「ウルサイ! 黙って乗ってろ!」儀ちゃんが怒鳴る。祝日のせいか道は大混み。おまけに道を間違えたらしい。

地図を頼りにやっと銚子に到着した頃は、夕焼け空になっていた。何軒かのお店に断られ、やっと木賃宿のような店で食事にありつけた。

さすがに魚は全部おいしかった。食べ終わると儀ちゃんは「すぐに帰ろう」と言う。

車に乗った私は、お腹がいっぱいになったせいか、すぐに眠ってしまったらしい。

「着いたぞ」と肩を揺すられた私は目覚めた。夜の十時を過ぎていた。

帰りの長い時間、儀ちゃんは一人で、一生懸命運転し続けていたのだろう。私でも起こさずに黙って眠らせておいたまま…。

私は「やさしいところもあるんだなあ」と初めて思った。二人だけのドライブはその時が最初で最後だったけど。

次回発行日は8月4日(金)

身近な情報はメール・FAXでお寄せください

家族葬のセクト
セクト で検索　http://www.sousai-sect.com
千葉市斎場でのお葬式はセクトへ
■千葉市斎場　千葉市緑区平山町 1864-1
■セクト・シティーホール都町　千葉市中央区都町 3-21-2
■セクトハウスおゆみ野　千葉市中央区生実町 2249-1
■セクト・シティーホール都賀　千葉市若葉区都賀 2-9-16
0120-00-5564

優良霊園
いつでも求められる和泉家の４大霊園
●いずみ霊園　●御成霊園
●千葉中央霊園　●千葉緑霊園
霊園案内サービスセンター
0120-148-237
安心と信頼　心のかよう墓づくり　創業 130 年
一般社団法人 全優石 全国優良石材店
和泉家
株式会社　和泉家石材店
千葉営業所／千葉市若葉区多部田町 1183

安心価格！雅の家族葬
会員登録（無料）で祭壇一式 20%割引あり
http://www.miyabi-sougi.com
検見川ホール
ＪＲ新検見川駅より徒歩４分
幕張本郷ホール
ＪＲ幕張本郷駅より徒歩５分
株式会社　雅セレモニーホール
0120-533-990

稲毛新聞はここでも手に入ります
千葉市観光情報センター……千葉駅東口
千葉市観光情報センター……海浜幕張駅構内
多田屋　稲毛店……稲毛区小仲台
フォトスタジオ　カツミ……稲毛区小仲台
なのはな整骨院……稲毛区小仲台
ぷりんと工房　小仲台店……稲毛区小仲台
ちばっ子寺子屋@稲毛……稲毛区小仲台
ケーズハーバー　ちばみなとプース…中央区中央港
靴のファミリー……若葉区千城台南

お店の宣伝や告知に…。
チラシも稲毛新聞社にお任せください
チラシ制作・ポスティング
各種広告・HP制作・会社パンフレット・名刺・各種印刷物
ご相談・お申込みは
☎ 043-256-4414